

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2172600609		
法人名	有限会社 ニフコ		
事業所名	グループホーム 田舎		
所在地	岐阜県揖斐郡池田町沓井 603		
自己評価作成日	令和2年11月10日	評価結果市町村受理日	令和3年1月4日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kai.gokensaku.nhl.w.go.jp/21/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&g_yosyoQd=2172600609-00&ServiceQd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 旅人とたいようの会		
所在地	岐阜県大垣市橋町1丁目3番地		
訪問調査日	令和2年12月9日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

静かな田園風景に囲まれ中庭と畑のある築五十一年の民家を耐震補強とスプリングラーで安全を確保しバリアフリーにしたホームです。利用者スタッフがあまり気を張ることなく、自然体で一日一日を楽しく過ごしていけるような場でありたいと思っています。かかりつけのクリニックの往診、看護職員と介護職員の連携を密にし、医療面でのサポートを充実させ、ご利用者、ご利用者家族に安心して健康にお過ごしいただけるように努めています。日々、業務の中で気付いたことを入居者やスタッフと話し合い、やりたいことや、やれることを増やし、楽しく暮らすための改善に努めています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

利用者の個性を引き出し、できる事ややりたい事が日常生活のなかで、楽しんでもできるように支援している。雑巾縫い、洗濯物畳みや調理手伝い等を役割として担ってもらっている。地域との交流が難しい状況ではあるが、畑作業中に地域の住民や子どもに積極的に声をかけ、事業所の理解が深まるように努力している。古民家を改築した事業所で死角となる場所であっても、見守ることで居心地良く穏やかに過ごせるようにしている。職員の提案は何でも実践し、利用者に合わせて手すりの設置、壁や床材の張り替え、イス脚部の修繕工夫等で柔軟に対応している。職員の子連れ出勤や希望に合わせた働き方で、利用者と職員は良好な関係を築き、利用者にとり暮らしやすい雰囲気になっている事業所である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族の2/3くらいと
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)		1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある			○	2. 数日に1回程度
			3. たまにある				3. たまに
			4. ほとんどない				4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)		1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらいが			○	2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)		1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が				
			2. 利用者の2/3くらいが				
			3. 利用者の1/3くらいが				
			4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー) です。〕

自己 外部	項 目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	運営推進会議や地域の方々との話し合う場を通じて、高齢者の健康、在宅での暮らし、在宅医療介護の在り方などについて共に考え、語り合う場としている。	理念を意識してケアできるように、職員がいつも目につく場所に掲示して取り組んでいる。利用者に合わせた楽しみ方を見出し、日常生活で実践している。管理者は気になる時は、業務内で話している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	運営推進会議を通じ福祉委員、民生委員と介護全般、防災やコロナの問題について話し合っている。地域の理髪店を選び、送迎や訪問理容で理髪している	事業所敷地内の畑で作業している時や散歩時に、子どもや住民と挨拶を交わしたり、住民から畑作業の助言を得たりしている。住民を職員として雇用し、地域との関係性を保てるようにしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	介護施設として専門性を活かし、高齢者のコロナに対する必要な知識について地域の方々を知っていただくようパンフを配布した。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議を開催し、地区の福祉委員、民生委員などと高齢者の健康、認知症問題、防災について話し合い、各々の意識やサービスの向上を図っている。	コロナ禍で現在は書面にて行っている。事業所の現状や行事報告等を行い、新型コロナウイルスや他の感染症等に関する資料を添付し意見を聞く努力をしている。コロナ禍でもあり継続的な開催ができていない。	書面会議で意見交換もできず、メンバーからの意見が望めなくても、事業所の現状を理解してもらい、運営に反映できるように開催することが望まれる。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	事務長が認定審査会やケアマネ連絡会に参加している。コロナ対応について県や町の安全教育を受け消毒衛生機器購入補助などにより利用者の安全に努めている。	書類提出時や介護認定審査会時に担当者に状況を伝えたり、情報を得たりしている。経済的困窮者の受け入れをしており県の担当者とも連携している。行政主催の会議や研修及び介護相談員の面会は中断している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束について日常的にスタッフと個々のケースに具体的、現実的に話し合い、身体拘束禁止の意識と人権意識を高めている。緊急性と代替性を強く意識するよう努めている	身体拘束排除マニュアルを整備し、言葉遣いにも注意し拘束しないケアをしている。屋外に出る人には敷地内を散歩し、気分が紛れる支援をしている。気になる事は職員で話し合い、他の方法がないか等を検討しているが、記録がなく職員研修が行われていない。	身体拘束しない為の指針を定め、委員会として話し合った内容を記録して欲しい。全職員に周知できるように職員研修を実施し、更に理解を深める努力が望まれる。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	難しい法律論ではなく、具体的に「どのような意識や行為か？」など日常的な話合いの中で理解を深め人権侵害や虐待の防止に努めている。		

グループホーム田舎

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者、事務長は権利擁護について、積極的に外部識者や社会福祉士と話し合い学ぶ機会を持つよう努めている。持ち帰って日常的にかみ砕いて職員に伝えるよう努めている		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時、できるだけ多くの家族や関係者に対して十分に説明し、入居に際しての理解と納得を得ている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	携帯メールなどを利用し、利用者や家族が管理者と気軽に本音で話せるような関係作りに努めている。コロナの面会制限により家族との接点が減っているため施設側からの情報発信を増やしている	現在は面会を制限している為、オンラインでの面会にしている。家族に利用者の状況や日頃の様子を写真つきで送付し、意見や要望を聞いている。必要に応じて電話やメールにて意見を聞く場合もある。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	事務長や管理者は業務改善についてスタッフの意見を早急に出来るだけ対応し、スタッフの現場意識、改善意欲や達成感を得られるように努めている。	日々のケアのなかで気づいた事を、管理者や事務長に伝えている。目が見えづらい人に手すりをつけるなど、職員の意見を反映している。職員の家庭環境や希望に合わせた勤務で働きやすくしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者や事務長は勤務状況や能力の向上を積極的に評価し、合理的で働きやすくやりがいのある職場環境をつくるために努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部で行われる講習会を紹介、参加を呼びかけている。講習会の参加費用の一部または全額を助成している。 コロナや防災関連の情報について積極的に学ぶ機会を設けている		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域の勉強会等にネット参加し、意識とスキルの向上を目指して情報交換をしている。得た情報をスタッフに伝えスキルアップを目指している		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	家族より在宅時の生活状況や趣味、嗜好を聞き取りするなどして本人が安心して暮らしていける環境作りに努めている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族親族の間に必要に応じて適度に介入し、本人と家族を一体的に支えることを目指している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	急激な生活環境の変化を緩和するため、デイユースやショートステイの利用など個別に臨機応変に柔軟に対応、できるだけ抵抗や不安感の少ないサービス導入を目指している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者が有している生活力を尊重した施設を目指す。現実的には認知力やADLの低下とリスクから厳しい部分もある。引き続き 利用者の生活力を見い出すよう努めていきたい		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	今年度はコロナ対応により2月頃より家族の面会を制限。家族にはコロナについての理解を深め施設の対応に協力を頂けるようお願いした		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナで家族の面会の機会や時間について制限をしていたが、厚労省や県の指針を見ながら感染のリスクを避けつつできるだけ家族との接点を持てるよう努めた	面会や外出制限の為、オンラインでの面会ができるように努めている。友人や親族等が面会時は再来訪を呼びかけていた。利用者が希望する理髪店や外食等へは、家族の協力を得て関係が途切れないようにしていた。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係を注意深く観察し、お互いが生活の質を高めあえるような関係を築けるよう見守り支援している。利用者間の軽いいざこざも社会的な刺激と考え見守ることもある。		

グループホーム田舎

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他施設に入居された方の状況を聞いたり、家族との連絡を適度にとっている。スタッフと話し合い自施設の在り方について前向きに話し合う材料としている		
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人にとって できるだけ居心地のよい場所、健康に安心して暮らす場でありたいと考え、その実現に努めている。本人が目標を得られるよう支援している。	利用者個々に話し方を工夫して、その人に合わせた聞き方や選択肢で、本人の言葉や表情で意思表示しやすくして把握している。起床・就寝時間や食事時間も利用者に合わせている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	生活歴や嗜好を家族からの聞き取りなどや日々の観察で把握し、暮らしやすい環境作りに努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の生活を観察、記録し スタッフ間で相談しながら生活力、ADLや生活力の把握に努めている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	関係者やスタッフで話し合いながら 介護計画を作成している。また現場のケアの中でも活発に意見交換し見直しに反映している。	本人の希望や家族からの意見をもらい、医師の助言も得て介護計画を作成している。日頃の気づきをケアノートに記録し、職員で話し合いモニタリングしている。必要時や状態変化時は、その都度見直している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の生活状況健康状態を観察記録し、管理者スタッフ間で相談協議し、日々の介護に実践しケアのレベルアップに努めている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	外出レク、緊急時の病院送迎など、利用者や家族の状況、状況に応じて臨機応変に柔軟、迅速に対応するよう努めている		

グループホーム田舎

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナ感染リスクを考え、地域との接点を制限した。理髪店の出張による整髪などにとどめた		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	通常は在宅時のかかりつけ医への家族受診を行っていたが、コロナ感染を考慮し、家族だけの受診または施設医の往診に切り替えた。	入居時に協力医に変更する人もいる。かかりつけ医の受診に家族が同行する時は、普段の生活の様子を書面で渡し、報告を受けている。緊急時は、協力医に連絡し指示を得る体制がある。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職員を配置し常時連絡を取りながら利用者の日々の健康的な生活を見守っている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院前の疾患、生活状況について詳細に報告している。退院が近づく病院関係者と連絡を密にし、家族、かかりつけ医とも相談の上、早期の受け入れに努めている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重篤となった場合や様々な予後の状態を想定して対応出来る事と、家族側が必要な事柄について、それぞれ具体的に説明相談している。運営推進会議において頻回に終末期の話題を取り上げている	状態の変化に合わせて家族に説明し、意向を聞いて支援している。医師から家族に説明してもらう場合もある。医師の指示で食形態の変更や栄養剤の補給をしている。家族とは常に連絡が取りやすい時間や手段を確認し、看取りをしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	事務長は救急救命講習を受講済み、看護師(管理者)と共に日常的に様々な場面で救急救命法や急変時の対応について説明し、スタッフ全体のスキルアップに努めている		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難方法や非常時備品について、日常的に考え、定期的に避難訓練を行っている。運営推進会議などを通じて協力体制の構築を目指している。トリアージに関して話し合っている	火災や風水害、夜間を想定した避難訓練を実施している。近隣河川の氾濫に備え水位の見方を職員に周知し、2階への避難方法等を確認している。水、米、医薬品や発電機等を備蓄している。	

グループホーム田舎

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者の職歴、生活史と人格を尊重し対応をするよう努めている	利用者の呼び方や話し方は、その人に合わせて傷つけないように心掛けている。居室の表札は希望する人のみ掲示し、入口の小窓にカーテンを下げてプライバシーにも配慮している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者自身の思いを聞きだす為に努力している。思いを上手く表現できない場合は適切な選択的な質問を行い 自己決定を促す努力をしている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	自己決定を尊重し日々様々な暮らし方を利用者それぞれが実現できるよう努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	安全と清潔と健康に配慮し、適切な身だしなみができるよう支援している		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	芋の茎の皮むき、筋取りなど下ごしらえなどお願いしている、台拭きやエプロン畳みなどできることをできそうな人にお願いしている。	献立の希望を言える人は少ないが、畑で収穫した野菜で調理し、彩りも工夫し盛り付けている。下拵えや食卓拭き等の利用者ができることを手伝っている。干し柿・干し大根や梅干し等を一緒に作っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	メニュー、摂食量とろみのレベルを個別に管理、必要に応じて個別に水分のインアウトや分割食など行い栄養と水分の摂取を管理している		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアを行っている。毎晩入れ歯の洗浄を個人の状況に応じて指示、見守り、全介助で行っている		

グループホーム田舎

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	それぞれの排泄パターンと能力、状況に応じて適切な排泄介助を行っている。固定的に独断的に考えず様々な変化に応じて柔軟に見直すよう努めている	一人ひとりの排泄パターンに合わせて、トイレ誘導をしている。夜間にポータブルトイレ使用する人やオムツ交換する人も日中は二人介助にてトイレ排泄に努めている。トイレを「便所」の表示にしたり、パッドの種類を検討したりして自立に向けた支援をしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	薬剤に出来るだけ頼らない自然な排便を目指している。食物繊維の多い食材の積極的な摂取。適度な運動。座位保持を行ったり漢方系のお茶などを服用している		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	庭に柚子が沢山なるので冷凍保存し、通年で入浴時使っている。ゆっくり温まりたいなどの希望をできるだけ聞き入れて入浴していただいている。	入浴順や湯温に配慮し、気持ちよく入ってもらうよう声かけを工夫している。菖蒲、柚やヨモギ等を入れ、季節の香りを楽しめるようにしている。体調に合わせてシャワー浴や清拭をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	本人と同居者の安全で健康的な生活を優先し、それぞれの希望や生活習慣を配慮した就眠環境作りに努めている。それぞれによって消灯時間は異なっている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者カルテに薬剤の説明書をファイルして薬剤の詳細について情報を共有している。降圧剤など取扱に注意を要するものはことあるごとにスタッフに事故例を上げ何度も説明している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居者それぞれの生活歴や趣味嗜好を家族との話しや日々の生活の中から見つけ出し生活に彩りをあたえる支援をしている		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	中庭や畑。施設周辺の自然豊かな道を散歩している桜の季節はすぐそばの堤防の花見を楽しんでいる。気分転換に努め体力気力の維持向上に努めている	敷地内の中庭や畑周辺を散歩している。コロナ禍での外出制限からパソコンで動画を見て、行きたい場所の景色を楽しんでもらっている。以前は回転寿司、ラーメン店、やな漁や喫茶店の外食や買い物、寺院参りも日常的に行っていた。	

グループホーム田舎

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭を使うことはなかなか無いが、チラシを見ながら野菜の値段を話すなどして金銭感覚の保持に努めている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	季節の挨拶状や年賀状を書くことを支援している(表書きはスタッフ)		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	なじみの生活環境である在来木造田舎造りの家屋を、スプリンクラーや地震等の防災、バリアフリーの改装を行い、また利用者の状況や必要に応じて随時、造作改修を行い安全の維持と健康な生活環境の実現に努めている	玄関やリビングに季節の飾り付けをし、廊下に観葉植物を置き、水耕栽培の野菜を育てている。中庭に洗濯物や布団を干しリビングで室内犬と利用者が戯れている。エアコンの風が直接当たらないように布で風向きを変えたり、濡れタオルを掛けたりして居心地良く過ごせるようにしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	日本家屋は比較的死角の多く、利用者はそれぞれ『お気に入り』の場を見つけることができやすい。スタッフはそれぞれの居場所を尊重したさりげない介護に努めている		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かし、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	安全と安静が確保できる前提で本人が慣れ親しんだ物品を持ち込み 安らかに気持ちよく暮らせる様にと考えている	使い慣れた寝具類、TV、時計、イスや物入れ等を持ち込んでいる。好みの服を掛けたり、自分の作品を飾ったりしている。居室は畳部分とフローリング部分の床面で自由に使い分けできるようにしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレの場所、トイレへの経路などを入居者の視点を考え見やすく表示している。体格や状態に応じて支えることのできる手すりを設置している。		